

続々と新しい施設がオープン

新潟県内の注目図書館！



新潟県内には、様々な魅力をもった図書館があります。近年、新しくオープンしたり、リニューアルされたりした図書館がいくつかあります。新しくオープンした図書館には、本の貸し借りだけでなく様々な特徴を有しています。今回は、そういった新しい図書館についていくつかご紹介します！

三条市立図書館（図書館等複合施設”まちやま”）【三条市】（2022年7月オープン）

北三条駅近くに位置する図書館等複合施設で、図書館機能のほか、交流スペース、イベントルーム、カフェなども併設されており、市民の多様な活動をサポートする「まちのリビング」として機能しています。開放的で居心地の良い空間デザイン、そして様々な世代が集い、学び、交流できる仕掛けが盛り込まれています。読書だけでなく、ワークショップやイベントへの参加、市民活動の拠点としても利用でき、地域コミュニティの活性化に貢献しています。



弥彦村図書館「らいわ弥彦」【弥彦村】（2023年6月オープン）

2023年に弥彦村役場敷地内に開館した地域の交流拠点となる図書館です。「読書で健康長寿」「非認知能力を伸ばす教育立村」「世代を超えてつながる村」をコンセプトに村民が集い学べる場を目指しています。テーマ別に並べられた本棚やBGMが流れる空間、カフェ併設など、従来の図書館とは一線を画す設計が特徴です。天然木の家具や靴を脱いでくつろげるスペース、キッズコーナー、個室ブースなどもあり、子どもから高齢者まで誰もが快適に過ごせる施設になっています。

長岡市立互尊文庫（米百俵プレイス ミライエ長岡）【長岡市】（2023年7月オープン）

長岡市立図書館の分館で、米百俵プレイス ミライエ長岡内に移転しました。長岡市の中心部大手通に位置する複合施設で、国漢学校の跡地に建てられました。「米百俵の精神」を現代に受け継ぎ、「人づくり・学び」「産業づくり・交流」「にぎわい」をテーマに、多世代が交流し、新たな価値を創造する拠点を目指しています。施設内には、長岡市で最初の公立図書館「互尊文庫」を継承した新しいスタイルの図書館機能や起業家支援、交流スペース、カフェ・飲食店などが設けられ、様々なイベントが開催されています。米百俵プレイス ミライエ長岡は、2026年度に飲食や交流スペース、ホールなどを備えた東館が地域の歴史と文化を継承しつつ、未来の長岡を支える人材育成と産業振興に貢献する、地方創生の一大拠点となっています。

小千谷市ひと・まち・文化共創拠点ホントカ。【小千谷市】（2024年9月オープン）

「賑わい・交流・憩いの創出」ひと・まち・文化共創拠点として、旧小千谷総合病院の跡地に開館しました。図書館と郷土資料館、市民活動の場や子どもの遊び場などが融合した複合施設です。動く書架や展示台を備え、情報と関係性を紡ぐ場「フロート」、趣味やまちづくりなどの活動・交流が行われる9つの「アンカー」、越後三山を望む屋上で各種イベントに活用できる「ルーフ」という3つの要素でできています。地域の交流と創造を促す空間を創り出しています。

魚沼市立図書館（魚沼市生涯学習センターここいら）【魚沼市】（2025年4月オープン）

旧小出庁舎の跡地に建設された、図書館と公民館、市民ラウンジの機能を併せ持つ複合施設で、「誰もが学び交流できる地域の拠点」を目指しています。図書館の一番の特徴は「段状書架」で、魚野川の流れや船着き場の石積みイメージした三段の書架が目を引きまします。「親子サロン」や「おはなしのへや」といった、親子や家族で気軽に絵本や雑誌に親しめる部屋もあります。また、商店街の駐車場としての役割も果たしており、商店街との連携やイベントの開催も想定されています。

おわりに

最近オープンしている図書館は、単に本を借りる場所ではなく、滞在・交流型へとシフトし、図書館の機能以外にも複数有する複合型施設になっています。デザイン性の高さも特徴で、美しく開放的な空間で、飲み物を飲みながら心地よいBGMが流れる中で本を読めるというようなところも多いです。皆さんも新しい図書館の魅力を感じてみるのはいかがでしょうか。

※本の貸出については、その自治体の住民（または近隣の住民）、通勤・通学している方に限られる場合がありますので、ご注意ください。

★新潟県の生涯学習の情報なら

ラ・ラ・ネット

検索

お問い合わせ：新潟県立生涯学習推進センター TEL 025-284-6110

『NEWS LETTER』バックナンバーはこちらから



今後オープン予定の県内図書館の情報

妙高市図書館（妙高市複合施設まちなか+）【妙高市】（2025年10月オープン予定）

中心市街地の賑わい創出と市民の利便性向上を目的に、妙高市役所の近くにオープンを予定している施設です。図書館を核とした複合施設で、1階にはカフェやプレイルーム、2階には学習室や市民活動室、3階には核となる図書スペースが配置される予定です。図書館機能に加えて子育て支援、生涯学習、市民交流の各機能を一体化し、新たな賑わいと交流の拠点として期待されています。名称の「まちなか+」には、「まちの賑わいを創出する期待感」が込められています。



※この画像は近代的な図書館をイメージしてGoogle Geminiを使用して生成しました。
妙高市図書館（妙高市複合施設まちなか+）とは関係ありません。